

はじめに

本書は自由進度学習について、子ども同士が互いに学び合う『学び合い』の考え方で取り組む方法をわかりやすく紹介する本です。

自由進度学習は、一人ひとりの子どもが、自分に合ったペースで学びを進めていくものです。言葉にするのは簡単ですが、これを実際に進めるには、一人ひとりの子どものつまずくポイントで、その子にあった説明や支援を、即座に対応するようなサポートが必要になります。

しかし、教室の40人の子どもに対して、適宜これをできる教師がいるでしょうか。神ではないたった一人の人間にそのようなことは無理です。でも、教室のすべての子どもが、すべての子どもに対してお互いに支援をし合ったらどうでしょうか。たった一人の教師の支援よりはずっと機能的にサポートし合える集団となり、個別最適化した学びがしやすくなるはずです。

この、子どもたち全員が、全員に対して助け合う状態を生み出す、それが『学び合い』の授業です。自由進度学習は『学び合い』の授業によってこそ成立すると私は思っています。

本書を読んでいただければわかると思いますが、『学び合い』を導入することはそれほど難しいことではありません。とくに、文科省によって、個別最適な学びと協働的な学びが推進されようとする今こそ、求められている考え方だと思います。

本書では、『学び合い』による自由進度学習をどのように始めていくとよいのかを、誰もが取り組みやすいようにまとめています。

自由進度学習をどうやって進めればよいかわからない、という人にとっては、『学び合い』による自由進度学習は、とても準備が簡単

で、負担が軽くなり、なおかつ子ども同士の関係やクラスづくりに役立つ、子どもにも教師にもメリットのある方法となるでしょう。

『学び合い』は1998年頃から、認知心理学に基づく教育研究の発展したものとして、私の研究室で研究が始まりました。その成果は『学び合う教室』（東洋館出版社）という本となり出版されました。それ以降、『学び合い』に関する本を毎年出版し続けました。

その結果、『学び合い』を実践する全国の多くの教師との関係が生まれ、20年以上の学術研究と、数千人規模の先生方の実践の積み上げの中で、完璧に近い理論と実践論が確立されています。

そして『学び合い』に関わる多くの教師が、『学び合い』の理論が提唱され始めたごく初期の段階から、単元内の自由進度学習を実践として積み上げてきています。

しかし、現状広がっている多くの自由進度学習は、教師の負担が大きく、なかなか持続的に続けることが難しい実践になっています。また、『学び合い』を知っている多くの方にとっても、『学び合い』による自由進度学習についての本がまだ出でおらず、そのイメージが難しいことがわかりました(もっともイメージに近い本として『流動型『学び合い』の授業づくり：時間割まで子どもが決める！』（高橋尚幸著、小学館、2020年）があります)。

そこで、自由進度学習に可能性を感じつつも「自分には無理」と思っている方、そして、すぐにでも自由進度学習を実践できる『学び合い』実践者に対して、簡単に継続的にできる自由進度学習の進め方をまとめたのが本書です。

自由進度学習には大きな可能性があります。この大きな可能性が生かされることを願って本書を書きました。

上越教育大学教職大学院教授

西川 純

CONTENTS

はじめに 6

第 1 章

自由進度学習ってなに？

自由進度学習を行政が推進するのはなぜ？ 14

自由進度学習を、本当の「自由」進度学習にするには？ 16

友達と「学び合う」自由進度学習が必要 18

拡大する自由進度学習 20

COLUMN 1 信じられる子ども集団を創るために 22

第 2 章

子ども同士の『学び合い』 でこそできる自由進度学習

『学び合い』ってなに？ 24

『学び合い』にはこんな効果がある！ 26

現場教師による実践事例

個別最適化を子ども自身が考える授業ができる！ 28

現場教師による実践事例

学びの全体像が俯瞰できる

『学び合い』での自由進度学習 30

現場教師による実践事例

問答で成長する『学び合い』による自由進度学習 32

『学び合い』で実現する自由進度学習の土台づくり 34

COLUMN 2 自由進度学習こそ『学び合い』ですと
教師も子どももラクになる 36

第 3 章

やってみよう！ 『学び合い』でできる自由進度学習 準備編

自由進度学習の前に『学び合い』を始めるとうまくいく 38

『学び合い』を始めるためにどんな準備が必要か 40

声かけステップ1 友達と相談するほうがわかることを伝えよう 42

声かけステップ2 大人になって大事なこと 44

声かけステップ3 この学習のルール 46

子どもはすぐに取り組める！ シンプルな課題で始めよう 48

取り組みのタイミングはテストから逆算で始めるといい	50
『学び合い』の基本的な流れ	52
授業中に先生は何をしているの？	54
最後に子どものよかった行動を語ろう	56
評価はどうするのか？	58
大事な注意 グループを教師はつくらない	60
COLUMN 3 実証的学術研究の重要性	62

第4章

やってみよう！ 『学び合い』でできる自由進度学習 実践編

『学び合い』による自由進度学習で最初に語るべきこと	64
単元単位で課題を渡すと早くなる理由	66
早く終わったときの対策は？	68
子どもたちは自由「深度」学習をし始める	70
計画を立てる必要があるか？	72
一定周期で自分の振り返りをみんなで共有する	74
一定周期で教師との問答を行う	76
COLUMN 4 手立てやしかけは極限まで削れる	78

第5章

自由進度学習、 こんなことに困ったら？ Q&A

悩む前に、集団の構造のセオリーを知っておこう	80
Q1 自由進度学習に問題が起こったら	82
Q2 ひとりぼっちの子どもがいたら	84
Q3 わからないのにほかの子に聞きに行かない子がいる	86
Q4 遊んでいる子がいたら	88
Q5 成績が上がらなかったら	90

COLUMN 5 集団づくりは 全員の問題を全員に考えてもらうこと	92
---	----

第6章

異学年で一緒に行く 自由進度学習がすごい

異学年で一緒に『学び合い』をするのは簡単です	94
異学年で一緒に『学び合い』による自由進度学習を体験	96
異学年『学び合い』の導入方法	98

注意すべきただ一つのこと	100
固定化した人間関係を打ち破る	102
『学び合い』をする文化の継承	104
異学年『学び合い』が先生方の変容を生む	106
おすすめの研修方法	108
受験対策に最強	110
現場教師による実践事例	
異学年『学び合い』をやりましょう	112
COLUMN 6 地域コミュニティの再生	114
付録 次に進めるためのガイドブック	115

『学び合い』による 自由進度学習で 最初に語るべきこと

単元分をまとめて課題を出すと伝える

『学び合い』による自由進度学習を始めるにあたって語るべきことは、そのルールの説明です。次のように語ってください。

これからは毎日一つずつ課題を与えるのではなく、単元分をまとめて与えます。

一つひとつの課題名で区切った大きな紙を黒板に貼ります。終わった人は、その課題の欄にネームプレートを移動してください。こうすれば各自がどこまで進んだかをみんなで共有できますね。

さて、今までは自分の課題を終わって、答え合わせをしたら教えていたと思う。それでは、これからは単元全部の課題を終えてから教え始めるのでしょうか？

しかし、そんなことをしたらどう解いたらよいかわからない子は、何日も誰からも教えてもらえないね。そんなことで全員達成はできるだろうか？ 無理だろうね。

そこで、全員が課題を達成したとき、次の課題に進むことができることをルールとします。しかし、数人が未達成でその子に教えている子がいる。その子の周りに十数人が集まって教えたら非効率だ。だからといって、できるまでボーッとしているのは非効率だ。だか

ら、未達成の子全員に教える子がついていた場合、達成した子は次に進んでよいことにしましょう。

それ以外にも、いろいろな問題が生じるかもしれない。その場合は、全員達成するために一番よいと思うことを各自でやりましょう。

『学び合い』による自由進度学習の場合は、最初の語りは不要になります。最後の語りも不要になります。最初の挨拶も不要になります。

時間になれば勝手に始まります。やる気が高まれば、時間前から課題に取り組む子どもが出てくるでしょう。

途中で伝えたいことがあるとき

ただし、どうしても伝えたいことがあったならば、ちょっと大きな声でそれを独り言のように語ってください。たとえば、成績優秀者であっても課題を誤解していた場合は次のように語るのです。

課題2の2番の問題だけど……。

そうすれば、それが理解できる子どもだけが手を止めて聞きます。その他の子どもへの注意喚起は、その子たちがやってくれます。

また、どうしても全体に語りたいことがあったら、次のように語ってください。ただし、どうしてもものときに限ります。

今日は、みんなにしっかり語りたいことがあるから、〇時〇分になったら自席に戻って静かにしてね。

単元単位で課題を渡すと 早くなる理由

👉 子どもに任せたほうが信じられないスピードで進む

単元丸ごと課題を子どもに任せる『学び合い』を始めてびっくりするのは、その速度です。早い段階で教科書が想定する3分の2の時間で終わります。子どもたちが乗ってくると半分の時間で終わります。ちょっと信じられないと思います。理由はクラスをリードする子どもたちのやる気をマックスにすることが可能だからです。

『学び合い』による自由進度学習が始まる前に、単元分の課題を書いたプリントを渡してください。その際には次のように語ってください。

単元分の課題が書かれたプリントがあれば、次の課題、次の次の課題、次の次の次の課題がなんであるかはわかるはずだ。**先生は予習しては駄目だとは言わないよ。**

こう話せば、100%予習してくる子どもが現れます。その子は開始早々に教卓に駆け寄り、答え合わせをします。そうしたら、大きな声で次のように語ってください。

え！ もう終わっているの？ 全問正解？ では君の次にすべき

ことは何？ そう、みんなに教えることだよ。大正解！

みんなに連絡です。本日は授業終了5分前に自席に戻って静かにして待ってね。

👉 クラスをリードする子の姿を全員の前で語る

その日の最後に次のように語ってください。

先生は今日すごいものを見た。〇〇は授業開始直後に答え合わせをし始めて、すぐに教え始めた。〇〇は予習してきた。

さて、先生は何をすごいと思ったと思う？ 〇〇が予習してきたことを驚いているのではないよ。〇〇が何のために予習したかに驚いている。

〇〇は何で予習してきたと思う？

自分のためか？ 違うな～。〇〇だったら予習しなくても余裕で課題を達成できるだろう。

先生のためか？ 違うな～。

では、誰のために予習してきたのだろう。そうだよ、みんなのためだ。みんなが全員達成するためだ。それがすごいと思う。でもね、このクラスには、みんなのために行動できる人は少なくないことを知っているよ。楽しみだな～。

さて、次の回にどうなるかは、もうおわかりですよ。そうですね。7、8人が予習してきたのです。**小学校6年生の授業を参観した時には、なんと1時間で3時間分の課題を全員が終わらせたのにはビックリしました。**理由は全員が予習してきた上に、4時間分の予習をしてきた子どもが4、5人いたからです。

早く終わったときの対策は？

予想以上に早く進んだときの語り

前項で述べたように『学び合い』での自由進度学習をすれば、標準の進度をはるかに上回ります。それはごく初期の段階から実感できると思います。

しかし、全員が早く終わったらどうしたらいいでしょうか？ 一部の子もだけが課題を達成できず、その子には既にアドバイスをしている子どもがいたらどうしたらいいでしょうか？ 一人の子どもの周りに多人数が集まってアドバイスしたら、アドバイスされる子どもが混乱してしまいますね。いずれにせよ手持ち無沙汰な子どもが生まれ、最悪、遊び始めます。それに対応しなければなりません。

たとえば 10 時間を想定していたものが、子どもたちの進度を確認すると、7 時間で終わると想定された場合はどうしたらいいでしょうか？ 子どもたちの進み具合から、それは単元の早い段階で予想できるでしょう。

そのような場合は次のように語ってください。

先生は君たちに謝らなければならないことがある。それは君たちの実力を見くびっていたことだ。君たちの課題は先生たちなら普通 10 時間かけて教える。だから 10 時間かかると予想して課題を与

えていた。しかし、今のペースでは、あと 2 時間で終わりそうだ。だから、課題を終わらせるための期限をあと 2 時間にしたいと思う。君たちならできるよね。

余った時間についての語り

さて余った時間はどうしたらいいでしょうか？

それも子どもたちに任せましょう。

そして、次のように語ってください。

君たちがすすぎすぎるから、ものすごく早く課題が終わった。しかし、課題が終わることがこの授業の目的ではない。全員の学力が上がることが実現できれば、それは君たちがすばらしい集団に育っていることを意味している。それは現在の君たちの幸せを保障するだけでなく、未来の君たちの幸せを保障している。

今回の目標は、クラスの全員が満点の 8 割以上を取ることだ。

さて、もしかしたら早く課題を終わらせることに注力していた子もいたかもしれない。しかし、それでは全員が 8 割という目標を実現することはできない。

○月○日に今回の単元のテストをする。それまでにクラスの全員が満点の 8 割以上を取ることを実現するために必要なことを、全力で取り組んでほしい。それまでの 3 回分の授業は、すべて君たちに任せた。期待しているよ。

なお、各自がバラバラに思いついたことをやることもありだと思うけど、作戦会議を開いて情報を共有することもよいことだと思うよ。ただし、それをやる、やらないは君たちの判断に任せるよ。